

第 34 回 CASCO 総会 報告書

1. 日時： 2019年5月1日（水）～2日（木）9:00～17:00、
2. 場所： Radisson Blu Hotel Nairobi Upper Hill（ケニア／ナイロビ）
3. 日本からの参加者： JISC より…浜田（JSA）、中川（JSA）
4. 概要：

●開会

ISO 事務総長 Mr. S.Mujica、M.Cheshire、ISO 次期議長 Mr. E.Njiroge、総会ホストの KENAS CEO Mr. E.Njiroge)、KEBS Marketing Director Mr. B.M.Nguyo 他が挨拶。

さらに CASCO 議長 Mr. Frank Makamo が、CASCO 総会が初めてアフリカで開催されたことの意義を述べるとともに、自身の任期の最後に出身地のアフリカ開催が実現したことに謝辞。また CASCO では開発途上国からの参加増加に努めてきたが、今回多くの開発途上国からの参加があったことはその成果であると述べた。

●前回（第 33 回メキシコ大会）の議事録

承認された。

●CASCO 議長報告

(1) 政策

- ・DCMAS (Developing Countries Metrology Accreditation and Standards) に代わるものとして、INetQI (International Network on Quality Infrastructure) が発足した。
- ・INetQI は、質の高いインフラ、貿易、国際開発に関わる組織が直面する課題に対応する組織で、2018年11月に第1回会合を実施。
- ・世界銀行とWTOが現在INetQIのメンバーであることを強調したい。

(2) CASCO と発展途上国対応

- ・現在、発展途上国メンバーが72%を占めている。
- ・発展途上国の課題への取組みを強化していく。
- ・今回の総会の形式も発展途上国メンバーの意見を反映させたものである。
- ・発展途上国の参画を促すため、Web ミーティングや各WGのホスト国を最低1回は発展途上国に担ってもらうようにしている。
- ・ISO 戦略2021の策定に向けCASCO、DEVCO、COPOLCOによる協力体制を継続する。
- ・能力育成のため27か国の総会参加の後援、WG46への支援、トレーニングコースの実施等を行った。

(3) ガバナンス

- ・ISO 評議会のメンバーとしてCASCO 作業計画の説明を行い、承認を得た。
→スペイン語化の要望あり。

●ISO 理事会報告

ISO 事務総長 Mr. Sergio Mujica より次が報告された。

2019 年戦略実施プランには 16 のプロジェクトがあり、以下に取り組んできた

- ・規格開発の見える化
- ・プロジェクトマネジメント改善
- ・オンライントレーニング
- ・outreach program (business & government Leaders)

戦略は 5 年単位で立てていたが、長期の視点も重要なので、10 年単位の missions & view を作っている。

リスクマネジメントの一環で脅威 (thread) の評価を行った

- ・市場のニーズに合致していない
- ・競合の増加
- ・専門家不足
- ・知的財産の損失
- ・規制の変更 など

New research and innovation unit を作り、規格開発のトレンドや新しい分野の検討を行っている。また財務モデルの検討も行った。

Gender action plan を立て、国連の SDG No.5 (Gender Equality) に対応するため、関連国際機関との協働、TC 向けのガイダンス作りなどを行っている。

●Working session “Strategies to enhance developing countries’ participation in standardization”

標記のテーマについて 5 項目 (下記の 17 のうち 1~5) の課題が示され、総会参加者が 7~8 名ずつのグループに分かれ、各課題に対し何が原因になっているかを検討した。

グループでの検討に先立ち、開発途上国から 4 名が登壇し (ケニア、トリニダードトバゴ、ペルー、モーリシャス)、それぞれ規格開発における課題や成功事例を紹介した。

国内でのキャパシティービルディングとして、ISO/TC&WG への参加経験に基づき国内でのトレーニングを行ったことや、ISO が提供する教育ツールを活用していることなどが紹介された。また ISO への参加には Zoom などを活用していることも述べられた。

関係省庁に働きかけ ISO 採用及び認証の受入れを促した例が紹介される一方、規格活用の便益が十分理解されていないこと、人材不足、認識不足の実情もあり、特に中小企業の巻き込みが課題であるとされた。

その後、グループ毎に検討を行った。その結果に基づき、事務局が 17 項目の possible solution & recommendations にまとめ、参加者各人が 17 の solution のうち重要度の高いと思われるもの 10 点を選び、Slido.com で投票した。

1. stakeholder engagement at nation level
2. lack of financial resources
3. lack of expertise at national level to participate in standards development
4. lack of understanding of implementation issues
5. establishment of efficient NMCs to collect national positions
6. involvement of young professionals in standards development
7. language

8. lack of awareness about the value/importance/benefits of standards
9. dissemination of standards
10. availability of data to prove the benefits and value of standards
11. ISO needs to break down initiatives into small groups to attack issues and come up with proposals that can be brought to the bigger group for discussion and approval
12. enhance participation of developing countries in the “high” structure of CASCO: STAR, TIG, CPC, WG convenors
13. lack of participation from stakeholders
14. regulators not using or supporting the standards
15. access to standards (royalties to be paid) smaller economies not having ability to access standards
16. conformity assessment versus regulators (double system) / overlapping mandates of government agencies responsible for stds and CA
17. lack of understanding of how to implement standards due to different culture

91名が投票し、得票結果は、14 (77%)、1 (75%)、3 (75%)、8 (74%)、4 (70%)、2 (68%)、10 (68%)、16 (64%)、13 (59%)、6 (54%)、5 (54%) であった。

●ISO/IEC17029 新規開発 (CASCO WG46)

開発の最終段階にある ISO/IEC 17029 の概要が、主査の Dr. Stefanie Vehring より説明された。

17029 は Validation/Verification を規定するものであり、CASCO としては新しいタイプの適合性評価として CASCO tool box に新規追加された。他の適合性評価が一定の期間の保証を行うのに対し、17029 は Validation/Verification statement を出した時点でのみの保証であり、statement は validity や expiry を伴うものではない。さらに Validation と Verification の差異、他の適合性評価との関連、他の適合性評価の中でどのように活用されうるか（例えば認証の際の証拠集めの中で Validation/Verification の結果が考慮されるかもしれない等）が説明された。

既に FDIS 案が仕上がっていて、間もなく FDIS 投票にかけられるので、IS は遅くとも半年以内に発行が見込まれる。

総会参加者からはマークの利用について懸念が示された。ISO/IEC 17029 ではサーベイランスは含まれないので、マークの使用について規定する ISO/IEC 17030 と矛盾する。Validation と Verification はごく一部の活動に関わるものであり認証にはそぐわないのではないかと（国内でも同様の議論あり）、また Validation/Verification に結果に付けられたマークが何を意味するか、消費者は混乱するのではないかと。これに対し主査は、製品認証と誤解されることはないと思うが、マークが何を意味するかがきちんと理解されずに混乱することはありうる、17029 は一般的な要求事項を示すだけなので、個々のスキームで適切に規定すべきと述べた。

●ISO/IEC 17000 改訂 (CASCO WG49) 及び Common Elements (Proc33) 改訂 (CASCO WG23)

主査の Dr. Cynthia Woodley が、文書の概要、改訂の背景、現在までの作業状況等を説明した。

(1) ISO/IEC 17000

WG49 の最初の会合で各タイプの適合性評価を functional approach (17000 の附属書 A に記載)

の観点で整理し、コンセプトマップを作ったこと（17000の附属書Cとして収録）、用語に”decision”を追加し functional approach の”review”と”attestation”との間に入れたこと等が述べられた。また用語の定義に validation、verification、impartiality などが追加され、conformity assessment system などが削除された。DIS 投票は 2019 年 6 月 28 日まで。

(2) CASCO Common Elements (Proc33)

文書の構成や位置づけが丁寧に説明され、CASCO 文書の制改訂を行う WG がどのようにこれを使わなければならないかの理解を促した（※）。

※ PROC/33 は、CASCO 内 WG が、CASCO 規格、及び適合性評価を行う組織に対する要求事項を規定する他の文書を開発する際に使用することを意図するものである。"impartiality", "confidentiality", "complaints", "appeals", "use of management systems"の各々に対し必須要素 (obligatory elements) 及び推奨要素 (recommended elements) の文言を規定する。

●ISO TS 22003 改訂 (TC34/SC17 & CASCO JWG 36)

CASCO 内の政策グループの一つである CPC (議長政策調整グループ) において、17021 - 1 及び 17065 対応の 2 文書として改訂することが合意された。22003 は 17021 - 1 の追加要求事項を規定するものであるが、改訂後は 22003 - 1 と 22003 - 2 が発行され、22003 - 2 は 17065 に基づく食品安全システム/プロセスの認証のためのマネジメントシステム要件を規定することになり、従来の適用範囲から大きく変わる。このため理解が難しく、混乱を招くのではないかと、全体像が分かるようにしてほしい等の意見があった。

●ISO/IEC 17025 に関するワークショップ

ワークショップに先立ち、CASCO 事務局から、ISO/IEC17025 は非常に関心の高い規格であり、WG44 は参加者が多く巨大な WG となり共同主査 3 名の体制で運営し無事改訂を終えたことに謝辞が述べられた。

ワークショップは Mr. Warren Merkel 及び Ms.Christina Draghici の 2 名で実施し、17025 改訂の考え方、主な改訂箇所、17025 の内容の説明が行われた。Mr. Warren Merkel は WG44 の共同主査の一人。Ms.Christina Draghici は TC212/WG1 (ISO 15189 改訂) の共同主査として、17025 にアラインさせて 15189 の改訂を進めている立場。

以下が説明された。

- 1999 年以來の大改訂である。その間の技術的進歩を勘案し、また将来にも対応可能なものにしたかった。
- risk-based thinking を取り入れた。
- 柔軟性の確保を心掛けた。
- Laboratory Activity を明確にした (試験 testing、校正 calibration、サンプリング)。
- 規制当局に対してサンプリングプロセスはよく議論することにした。
- Decision rule とは、曖昧さを含む結果に対する判断基準である。
- 一般的な要求事項として impartiality、confidentiality、equipment などの概念を追加拡張している。
- この 20 年の IT の進歩を考慮し、測定器の範囲も大きく広がっている。

risk-based thinking 及びサンプリングについては、どの様に考えるのかが未だ定まらないようで、参加者からの質問が多く寄せられた。

●IEC-CAB

IEC/CAB 議長、Mr. Shawn Paulsen よりその活動が報告された。

- ・ CAB、SMB、MSS で構成される。政策団体でもある。
- ・ 最近の取組みとしては、メディカル、自動車サプライチェーン、原子力のサプライチェーン、クリーンエネルギーなどがある。

次のような質疑応答があった。

- ・ ステークホルダーをどう捉えているか？
→ 産業界全般、ラボ業界など。大抵の国ではシステムが出来上がっていてその中で管理されている。
- ・ エネルギー効率化に関するトレーニングコースはあるか？
→ 公式にはないので検討する。
- ・ 認定について。
→ 認定は各国の認定機関が行うが、無い場合は IECCE の recognition を行い 3 年毎の監査を行う。

●CASCO 事務局報告

報告に先立ち、事務局の役割が説明され、規格が一貫性を保って開発されることの重要性が述べられた。主な報告は以下。

(1) 前回総会以降の新規発行文書

- ・ ISO / IEC TS 17021-8 : 2019 コミュニティにおける持続可能な開発のための MS 監査及び認証のための力量要件
- ・ ISO / IEC TS 17021-10 : 2018 労働安全衛生 MS の監査及び認証のための力量要件
- ・ ISO / IEC TS 17021-11 : 2018 施設管理 (FM) MS の監査及び認証のための力量要件

(2) CASCO メンバー

- ・ ウガンダが新しい P メンバーに、ルワンダが O から P メンバーへ、アンゴラが P から O メンバーへ。現在 141 のメンバーのうち、P メンバーが 107、メンバーが 34。101 の発展途上国が加盟。

(3) New Rights Programme

- ・ S メンバーであっても P メンバーとして規格開発に参加できる。開発途上国からの参加を促すために作った制度。参加に際して財的支援を受けられるので活用願いたい

●CPC 報告

CPC 報告参照。

●STAR からの報告

STAR 報告参照。

●TIG からの報告

主な活動が報告された。

- ・ ISO 14065 と ISO / IEC 17029 との整合 - ISO 14065 は ISO/IEC 17029 の daughter standard

に位置付けられるので、両者が整合するように働きかけた。

- ・ ISO 15189 と ISO/IEC 17025-ISO 15189 の改訂にあたり両者の整合を求めている
- ・ ISO/IEC 20000 シリーズ：IT 関連だけではなくすべてのサービスに適用されると表明しているため、ISO TMB に懸念事項として伝達。
- ・ いろいろな TC/SC が適合性評価に関するスキーム文書を開発している。これらが ISO/IEC Directives 及び既存の CASCO 文書に沿って開発されるように働きかけている（ISO/DIS 19301、ISO/PRF TR19303-1、ISO 16696-1、ISO/IEC 27034、ISO/IEC 24773-4 など）
- ・ スキーム開発にあたって Dos と Don'ts のパンフレットを作成した。公開は 2019 年 7 月を予定

●ISO サーベイについて

特に議論なく採択された。

●IAF-ILAC-ISO JWG の報告

特に議論なく採択された。

●スペイン語翻訳タスクフォースの報告

特に議論なく採択された。

●ISO 委員会のリエゾンからの報告

- ・ ISO/COPOLCO 他、37 件
- 特に議論なく採択された。

●CASCO A リエゾンからの報告

- ・ BIPM 他、25 件
- 特に議論なく採択された。

●決議事項（主要なもの）

- ・ 発展途上国は地域の団体に対して CASCO プレナリーに参加するよう働きかける。
- ・ New Rights Programme についてメンバーの積極的参加を促す。

●今後の会議予定

- ・ WG52：5/6~8
- ・ JWG36：9/19~20
- ・ WG49：9/23~25
- ・ WG23：9/26~27
- ・ TIG：12/3
- ・ STAR：12/4
- ・ CPC：12/4

●今後の総会スケジュール

- ・ 2020 年：5 月 5～6 日於ドイツ（ベルリン）
- ・ 2021 年：場所未定（ホスト募集中）

●閉会

CASCO 副議長の Mr. Alister Dalrymple が挨拶。CASCO 議長の任期を終える Mr. Frank Makamo に謝辞を述べ、数々の功績、特に開発途上国の参加に尽力したことを讃えた。

以上